

"Labor Value and Exploitation in Global Economy"

2012 年 12 月 12 日

経済学研究科第 520 回例会

萩原 泰治

利潤の存在条件と搾取の存在は同値であるというマルクスの基本定理は、一国の範囲内で議論されてきた。国際間の相互依存関係を考えた時、同定理がどのように修正されるかについて、中谷(1994)が述べている。すなわち、国際間で賃金水準が異なる場合、必ずしも全ての労働者が搾取されているとは限らないが、少なくとも 1 国の労働者が搾取されていることが利潤存在の条件である。萩原(200*)は、経済産業省が作成した日米アジア欧州国際産業連関表(1985 年、1990 年)を用いて実証分析を行い、日本の労働者は搾取されていないことを示した。

2012 年 Groningen 大学を中心とするグループが 40 カ国の産業連関表を用いた国際産業連関表(1995-2009 年)を作成、公表した。

本報告では、このデータを用いて、上記の命題の検証を行った。日本(1995)、韓国(1996-7)、ドイツ (1995-2001,2003-2007)で搾取がなかったことを示した。